

修正前

単品スライド額算定計算書（発注者用）（マニュアル1-5-1 ①, ②）
 ※実勢価格にてスライド額を算出する場合（実際の購入金額が実勢価格を下回る場合を含む）

黄色セル：入力欄

A：当初設計額（税込み）		円
B：当初請負額（税込み）		円
C：請負率（B/A）	#DIV/0!	(=k)
D：スライド前の最終設計工事価格		円
D1：既済部分出来高額（税抜き）	0	円
D2：スライド対象工事価格（税抜き） D-D1	0	円
E：D2×1%	0	円

※該当がない場合は、0を入力。

変動額算定表（設計額ベース・税抜き）

品目※1	材料名	規格	単位	F※2 対象数量	G※3 当初単価 (税抜き)	H 当初想定金額 (税抜き) F×G	実勢単価（設計ベース単価）				M 変動後金額 (税抜き) F×L×Q	N 変動額 (税抜き) 品目毎の ΣM-ΣH	O 判定 N-E 0>0→対象 0≤0→非対象	P 対象変動額 「O=対象」 の場合 N
							I※3,4 価格刊行物等 実勢単価 (税抜き)	J※3,4 受注者 購入単価 (税抜き) Iが空欄の場合	K※4 受注者 購入単価 設計換算額 (税抜き) J+C	L※4 採用単価 (税抜き) I or K				
鋼材						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
品目小計						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
生コン						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
品目小計						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
石材						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
品目小計						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
燃料						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
品目小計						0	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0			
品目ごとの設計額ベースの変動額 合計（税抜き）							0			0	0	0	非対象	-

- ※1 単価変動の要因が同一のもの、同一品目として取り扱うことを基本とする。
- ※2 燃料油を除く材料については、受注者の証明数量が設計図書の数値に満たない場合は、対象材料とならない（マニュアル2-2）。
- ※3 G及びIは設計ベース単価（税抜き）を入力する。Jは受注者の購入額の単価（税抜き）を入力する。
- ※4 実勢単価は価格刊行物等の単価Iを採用する。また、価格刊行物等による設定が困難な材料はマニュアル2-4-2②に基づき、単価を設定すること。
- ※5 行は必要に応じて追加すること。その際、集計が正しくされるか、数式を確認すること。

Q：設計額ベースのスライド額相当額（税抜き） ΣP-E	0	円（万円未満切捨）
--------------------------------	---	-----------

R：スライド額（税込） Q×1.1	0	円
----------------------	---	---

修正後

単品スライド額算定計算書（発注者用）（マニュアル1-5-1 ①, ②）
 ※実勢価格にてスライド額を算出する場合（実際の購入金額が実勢価格を下回る場合を含む）

黄色セル：入力欄

A：当初設計額（税込）		円
B：当初請負額（税込）		円
C：請負率（B/A）	#DIV/0!	(=k)
D0：最終設計額（税込）		円
D：最終請負代金額（税込） D0×C		円
D1：既済部分請負代金額（税込）		円
D2：対象請負代金額（税込） D-D1		円
E：D2×1%（税込）		円

※計算システムで算出したスライド対象適用前の最終設計額を入力。
 ※計算システムで算出したスライド対象適用前の最終請負代金額を入力。
 ※該当がない場合は、0を入力。

変動額算定表（設計額ベース・税抜き）

品目※1	材料名	規格	単位	F※2 対象数量	G※3 当初単価 (税抜き)	H 当初想定金額 (税抜き) F×G×C	実勢単価（設計ベース単価）				M 変動後金額 (税抜き) F×L×Q	N 変動額 (税抜き) 品目毎の ΣM-ΣH	O 判定 N-E 0>0→対象 0≤0→非対象	P 対象変動額 「O=対象」 の場合 N	
							I※3,4 価格刊行物等 実勢単価 (税抜き)	J※3,4 受注者 購入単価 (税抜き) Iが空欄の場合	K※4 受注者 購入単価 設計換算額 (税抜き) J+C	L※4 採用単価 (税抜き) I or K					Q 「I=L」 の場合 C（請負 率）
鋼材						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0				
品目小計						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
生コン						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0				
品目小計						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
石材						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0				
品目小計						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
燃料						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0				
品目小計						#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
品目ごとの設計額ベースの変動額 合計（税抜き）							#DIV/0!			0	0	0	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

- ※1 単価変動の要因が同一のもの、同一品目として取り扱うことを基本とする。
- ※2 燃料油を除く材料については、受注者の証明数量が設計図書の数値に満たない場合は、対象材料とならない（マニュアル2-2）。
- ※3 G及びIは設計ベース単価（税抜き）を入力する。Jは受注者の購入額の単価（税抜き）を入力する。
- ※4 実勢単価は価格刊行物等の単価Iを採用する。また、価格刊行物等による設定が困難な材料はマニュアル2-4-2②に基づき、単価を設定すること。
- ※5 行は必要に応じて追加すること。その際、集計が正しくされるか、数式を確認すること。

Q：設計額ベースのスライド額相当額（税抜き） ΣP-E/1.1	#DIV/0!	円（万円未満切捨）
------------------------------------	---------	-----------

R：スライド額（税込） Q×1.1	#DIV/0!	円
----------------------	---------	---

- ※ 価格の加重平均が必要な場合は、別途計算すること。
- ※ この様式で対応できない場合は、マニュアルに基づき別途計算すること。

修正前

単品スライド概算定計算書（発注者用）（マニュアル1-5-1 ②、③）
 ※受注者から実際の購入金額でスライド額を算出することを希望する旨の申し出があった場合

黄色セル：入力欄

A：当設計額（税込）	円
B：当初見積額（税込）	円
C：原価率	B/A
D：スライド前の最終設計工事価格	円
D1：既済部分出来高額（税抜き）	0 円
D2：スライド対象工事価格（税抜き）	0 円
E：D2×1%	0 円

※該当がない場合は、0を入力。

変動額算出表（設計額ベース、税抜き）

品目#1	材料名	規格	単位	F#2 対象数量	G#3 当初単価 (税抜き)	H 当初想定金額 (税抜き) F×G	I 実勢単価 (税抜き)	J 受注者 購入単価 (税抜き)	K 見積単価 (税抜き)	L#4 採用単価 (税抜き) I or J	O 「I=L」の場合 C (請求率)	M 実勢価格 +30%以内 の判別 対象の場合 ⇒Oへ ※5 妥当性確認 の場合⇒Nへ	N 発注者による妥当性確認 (①~③にOp×を入力)				O 変動後金額 (税抜き) F×L	P 変動額 (税抜き) 品目毎の E O-E H	Q 判定 P-E O>0⇒対象 O≤0⇒非対象	R 対象変動額 「O=対象」 の場合 N
													①発注者による 見積価格	②送付工事にお ける材料調達状 況	③特別請求で設 定した単価の項 目、調査期間へ のヒアリング	①~③確認結果				
鋼材																				
品目小計																				
生コン																				
品目小計																				
石材																				
品目小計																				
燃料																				
品目小計																				
品目ごとの設計額ベースの変動額 合計 (税抜き)																				

- ※1 単価変動の原因が同一のもの、同一品目として取り扱うことを基本とする。
- ※2 燃料油を除く材料については、受注者の証明数量が設計数量の数量に満たない場合は、対象材料とならない（マニュアル2-2）。
- ※3 I及びKは設計ベース単価（税抜き）を入力する。Jは受注者の購入単価（税抜き）を入力する。
- ※4 行は必要に応じて追加すること。その際、集計が正しくされるか、数値を確認すること。
- ※5 妥当性の確認が必要な場合、Nの項目①~③をすべて確認（入力）し、妥当性を判断する。

S：設計額ベースのスライド額増減額(税抜き) Z R-E/I	0 円 (万円未満切捨)
T：原価率スライド額 (税込) S×1.1	0 円

修正後

単品スライド概算定計算書（発注者用）（マニュアル1-5-1 ②、③）
 ※受注者から実際の購入金額でスライド額を算出することを希望する旨の申し出があった場合

黄色セル：入力欄

A：当設計額（税込）	円
B：当初見積額（税込）	円
C：原価率「B/A」	B/A
D0：最終設計額（税込）	円
D1：既済部分出来高（税込）	円
D2：変動部分出来高（税込）	円
E：D2×1%	円

※設計システムで算出したスライドは概算見積の最終設計額を入力。
 ※設計システムで算出したスライドは概算見積の最終設計額を入力。
 ※該当がない場合は、0を入力。

変動額算出表（設計額ベース、税抜き）

品目#1	材料名	規格	単位	F#2 対象数量	G#3 当初単価 (税抜き)	H 当初想定金額 (税抜き) F×G×C	I 実勢単価 (税抜き)	J 受注者 購入単価 (税抜き)	K 見積単価 (税抜き)	L#4 採用単価 (税抜き) I or J	O 「I=L」の場合 C (請求率)	M 実勢価格 +30%以内 の判別 対象の場合 ⇒Oへ ※5 妥当性確認 の場合⇒Nへ	N 発注者による妥当性確認 (①~③にOp×を入力)				O 変動後金額 (税抜き) F×L×O	P 変動額 (税抜き) 品目毎の E O-E H	Q 判定 P-E O>0⇒対象 O≤0⇒非対象	R 対象変動額 「O=対象」 の場合 N
													①発注者による 見積価格	②送付工事にお ける材料調達状 況	③特別請求で設 定した単価の項 目、調査期間へ のヒアリング	①~③確認結果				
鋼材																				
品目小計																				
生コン																				
品目小計																				
石材																				
品目小計																				
燃料																				
品目小計																				
品目ごとの設計額ベースの変動額 合計 (税抜き)																				

- ※1 単価変動の原因が同一のもの、同一品目として取り扱うことを基本とする。
- ※2 燃料油を除く材料については、受注者の証明数量が設計数量の数量に満たない場合は、対象材料とならない（マニュアル2-2）。
- ※3 I及びKは設計ベース単価（税抜き）を入力する。Jは受注者の購入単価（税抜き）を入力する。
- ※4 行は必要に応じて追加すること。その際、集計が正しくされるか、数値を確認すること。
- ※5 妥当性の確認が必要な場合、Nの項目①~③をすべて確認（入力）し、妥当性を判断する。

S：単品スライド額 (税抜き) ※増減数値 Z R-E/I	0 円 (万円未満切捨)
T：原価率スライド額 (税込) S×1.1	0 円

※ 価格の加重平均が必要な場合（種別月の購入実績があり、月毎に購入価格が異なった場合）は、別途計算すること。
 ※ この様式で対応できない場合は、マニュアルに基づき別途計算すること。